

専門科目 疫学・生物統計学分野

(博士後期課程)

科目名	疫学・生物統計学特殊研究	code number : BIO 510	選択必修	12 単位
-----	--------------	--------------------------	------	-------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1～3年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

1. 授業の概要

論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者 (Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。
(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)

2. 授業の到達目標

疫学・生物統計分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。
尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。

3. 成績評価の方法および基準

最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。
(詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)

4. 教科書・テキスト

・適宜提示する。

5. 参考書

・適宜提示する。

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。
その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。

7. その他履修上の注意事項

- ・学位申請の手引き等により、計画審査、中間審査および学位審査に至る流れを理解し、数年間の長期計画を立案し実行する。
- ・毎月末、1か月間の学習や研究活動などについて、指導教員に報告する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

疫学・生物統計学特殊研究

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p>【概要】 疫学や生物統計学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p>【研究指導教員と主な指導内容】 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の3名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(石川 ひろの) 行動科学的研究に関する社会疫学的研究など</p> <p>(大脇和浩) 臨床疫学に関する研究など</p> <p>(松浦正明) 臨床疫学的研究、トランスレーショナル研究、遺伝情報学的研究、統計学的モデルに関する研究など</p> <p>(山岡和枝) メタアナリシス、無作為化比較試験、社会調査研究、質問票の信頼性研究、QOL研究、その他臨床研究など</p> <p>(桑原恵介) 疫学・予防医学・応用健康科学に関する研究など</p> <p>(根本明日香) 臨床試験、治験の研究デザインや実施に関する研究、薬剤疫学的研究など</p> <p>尚、研究指導補助教員には、上記のほか、内容に応じて他分野の教員が分野横断的に担当する。</p>				